

「ポーランドダンスの祭典 2023 in 北海道」について 今井 裕美

9月23～24日札幌市南区真駒内の北海道青少年会館 Compass で「ポーランドダンスの祭典 2023 in 北海道」(参加者約150名)が開催されました。ポーランドの民族舞踊に特化して踊る2日間は、日本のフォークダンス(民族舞踊)界においても稀有な催しでした。



(左から)今井裕美・秀樹(PFAJ 事務局長) ダンス風景

(左から)門間巖(PFAJ 会長)、安藤厚(博文協会長)、佐々木康夫(北海道ポーランド民族舞踊研究会 Do 代表)

「ポーランドの民族舞踊」という言葉から皆さまが思い描かれるのはどのような映像でしょうか? よくご存じのポーランド生まれのショパンは、数多くのポロネーズや、マズルカを作曲しています。その作品の根底に流れる哀愁を帯びたメロディー、時に迸る激情、誇り高い旋律、いずれもショパンが20歳まで過ごした故郷の民族音楽や母国への愛が込められています。

ポーランド各地には現在に至るまでそれぞれの民族舞踊が伝わっており、フェスティバルでは地元の舞踊団などが民族衣装に身を包み、生演奏で楽しく踊っています。その一方で3度の亡国を経験したポーランドは、国の誇りをかけて自国の民族舞踊5種類を「ナショナルダンス」と位置づけ、芸術の域まで高め踊り継いでいます。「ポロネーズ」「クヤヴィアク」「マズール」「オベレック」「クラコヴィアク」です。「クラコヴィアク」以外は3/4拍子ですが、リズムの緩急やアクセントが微妙に異なり、踊り手は練習を強いられます。しかしその奥深さ故に日本人の私達でも魅力を感じ、踊り続けています。

日本・ポーランド民族舞踊友好協会 PFAJ

「日本・ポーランド民族舞踊友好協会」は2014年に、当時のポーランド広報文化センター所長ミロスワフ・ブワシチャック氏のお力添えで発足しました。

それまで個々にポーランドダンスを踊る活動をしてきた団体が集い、踊りを介して親交を深め、さらに活動の枠を拡げ、ポーランドとの文化交流や民族舞踊のワークショップなどが可能になるよう、2021年8月にスタニスワフ・ハディナ記念ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」とパートナーシップ契約を結ぶに至りました。

現在、協会には北海道から九州まで、ポーランドダンスを踊る12団体・愛好者が所属しています。年に一度、各地持ち回りでポーランドダンスを踊るイベント「ポーランドダンスの祭典」を開催し、ポーランドの踊りを楽しんでいます。2019年よりシロンスク舞踊団との連携も進み、毎年舞踊団のコンテンポラリーダンスの上映会、公演、ワークショップを開催しています。本年6月に初めてポーランドダンスを愛する20代の若者2人をシロンスク舞踊団の70周年記念式典とオリジナルワークショップに派遣することができ、協会としても大きな一歩となりました。

心を魅了する民族音楽、多彩な民族衣装、そして踊りというコミュニケーションは、時代を越えて私達を捉え続けます。

今回いただいた北海道ポーランド文化協会の皆さまとご縁が今後とも続きますようお願いしております。

(いまい・ひろみ、PFAJ 事務局、京都府宇治市)

ワルシャワ蜂起 80 周年記念事業として、広島、大阪に次いで、札幌で「展覧会」この夏に開催決定!



ワルシャワ蜂起博物館  
 アダム・ミンキエヴィチ・インスティテュート 主催  
 「ワルシャワ。灰の中から甦る不死鳥」

会場：札幌市資料館(旧札幌控訴院、大通西13)  
 会期：2024年8月(詳細はPOLE次号をご参照)

首都の崩壊に特別な焦点を当て、占領下ワルシャワの姿をありありと描写。第二次世界大戦時のワルシャワとポーランドの運命と、原爆により甚大な被害を受けた広島との関連が提示され、廃墟から立ち上がり今日では近代的でダイナミックな大都市となったワルシャワの復興もキーワード